

## 富良野演劇工場運営委員会（令和5年度第1回）顛末

日 時：令和5年8月24日（木） 10：30～11：45

場 所：富良野市複合庁舎 富良野文化会館 会議室C

出席者：運営委員 天日委員長、桑原委員、篠嶋委員、山口委員、石山委員

演劇工房 原理事長、太田事務局長

富良野市 山下市民生活部長、事務局3名（奥田課長・楠本係長・川崎）

### 1. 辞令交付

※新たに委員となる桑原委員と篠嶋委員に辞令を交付。あわせて、新たな委員から、自己紹介を兼ねてご挨拶をいただいた。

桑原委員：校長会の会長をしています。富良野の特色である演劇に関わることが出来て光栄に思います。よろしくお願いします。

篠嶋委員：文化団体協議会、富良野文化協会の会長をしています。文化の発展の力になればと思って活動しておりますので、よろしくお願いします。

### 2. 委員長あいさつ

コロナ禍で厳しい状況に置かれていたが、活動も戻ってきていると感じている。演劇工場のさらなる発展にむけ、忌憚のない意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

### 3. 市民生活部長あいさつ

演劇工場ができて23年。皆さんの努力により演劇のマチ富良野という印象が定着してきた。現在、議会において富良野市文化芸術基本条例が議論されているが、その前文には演劇工場についても盛り込まれている。演劇工場における適切かつ適正な運営について、ご議論いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

### 4. 富良野演劇工場運営委員会の設置目的

※資料に基づき事務局より説明し、意見交換を行った。

天日委員長：来年は運営委員の改選期となるが、委員に女性が入ってくれるといい。

篠嶋委員：副委員長は選出されていないのですか？

事務局：規則では委員7名以内をもって組織し、委員長と副委員長を置くこととなっているが、一般公募が少なく委員が5名となっていることもあり副委員長は選出していない。

### 5. 報告事項

(1) 令和4年度富良野演劇工場指定管理について

※資料に基づき事務局より説明し、意見交換を行った。

天日委員長：3年かけて吊物の改修を行ったとのことだが、施設改修の懸案事項となっているものはありますか？

太田事務局長：冷暖房設備の更新が課題となっている。

(2) 令和4年度富良野演劇工場（指定管理分）の収支決算について

(3) 令和4年度ふらの演劇工房事業について

(4) 富良野演劇工場 年度別利用状況

(5) 富良野演劇工場 団体別利用延日数調

※資料に基づき(2)から(5)まで一括して太田事務局長より説明。

太田事務局長：コロナ禍において補助金や交付金などを活用しながらギリギリのところまで運営してきたが、予想以上の電気代の値上がりが要因となり約87万円の赤字となった。

太田事務局長：コロナ禍からお客が戻らない。チケットも売れない。まだ人が集まるところに抵抗があるのか…

太田事務局長：利用団体としては小中高校の修学旅行の一環としてのワークショップが人気となっており、工房の事業の柱になりつつある。

※(2)から(5)に関しては、意見・質疑はなし。

## 6. 協議事項

(1) 富良野演劇工場の運営に係る意見（情報）交換

※各委員から意見をいただいた。

石山委員：利用者の一人として、落語なども楽しみにしている。頑張ってもらいたい。

山口委員：コロナ禍や電気代で大変なのは、世の中みんな同じ。経営面のことは大事だが、なぜ集客が少ないのか？どうしたら戻せるのか？その部分を掘り下げる必要がある。補助金などに頼らない経営、演劇工房の設立当初の目的や目指すべき方向などに立ち返るべき。

篠嶋委員：コロナ禍でご苦労されたと思う。前例踏襲では集客を戻すのは難しいと感じる。

桑原委員：演劇のマチとして、学校側から積極的に演劇工房を活用する意識も必要だと、あらためて感じた。演劇は人間関係・コミュニケーションをつくるツールとして極めて重要。しっかり守っていかなければならないと思う。

原理事長：経済活動の停滞の影響を最初に受けたのが文化・芸術活動であった。経済活動の活性化とともに文化・芸術の復活につながっていくと感じている。

自ら演劇に関わりたいという人が増えてきている。前はそうではなかった。演劇文化の定着と発展を実感しているところ。

今後も皆さんからいただいた意見も踏まえ、活動していきたい。

## 7. その他

※特になし。